

上士幌町まちづくり団体アンケート結果

平成23年1月

上士幌町

もくじ

| | | |
|---|------------------------------|----|
| 1 | 調査の概要 | 1 |
| 2 | 調査結果の概要 | 2 |
| 3 | 回答のあった団体..... | 3 |
| 4 | 設問別調査結果 | 4 |
| | 【問1】困っていること、悩んでいること | 4 |
| | 【問2】今後の予定や抱負 | 10 |
| | 【問3】活動を充実する上で行政に期待する支援 | 16 |
| | 【問4】今後のまちづくりへのご意見・ご提案..... | 17 |
| 5 | 調査票..... | 23 |

1 調査の概要

このアンケートは、「第5期上士幌町総合計画」を策定するうえで、上士幌町で活動している各種団体等が抱える問題や今後の抱負、まちづくりに関する意見や提案などを把握し、計画に反映するために実施したものです。

調査の実施方法などについては、次のとおりです。

| | |
|------|---------------------------------------|
| 対 象 | 上士幌町で活動している各種団体等 |
| 調査期間 | 平成22年7～9月 |
| 調査方法 | 郵送にて配布、郵送またはファックスにて回収 |
| 回収状況 | 配布数 71 票 回収数 60 票 回収率 84.5% |

集計・表記方法

- ・比較や順位付けは、回答数ではなく、回答率で行っています。そのため、「多い・少ない」ではなく「高い・低い」の言葉を用いています。
- ・自由記述回答は、回答者の実際の記述事項を整理・要約して掲載しています。同じ内容についてはまとめ、回答数を（ ）で示しています。

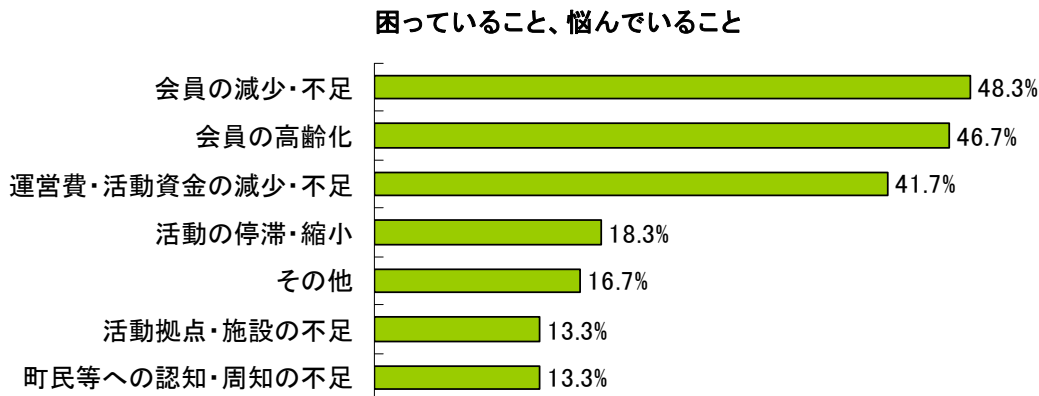
調査の実施機関

企画・編集：上士幌町 企画財政課

集計・分析：株式会社 日本コンサルタントグループ

2 調査結果の概要

(1) 困っていること、悩んでいることについて



具体的な内容をみると、「会員の減少」が「運営費・活動資金の減少・不足」や「活動の停滞・縮小」につながっており、「会員の減少」の原因として「会員の高齢化」や新しい（若手の）会員不足である場合が多くなっています。

(2) まちづくりへの意見、考え、アイデアなど

各団体に関連したまちづくりへの意見が出ているため、広い分野で意見が上がっています。なかでも、農業支援への要望や、生涯学習、移住・定住に関する意見が多く挙げられています。

| 区分 | 主な記述 |
|-------|---|
| 環境美化 | ・町を過ぎるとすぐ（六差路あたり）国道沿いの花壇が荒れている。花壇の延長と、多年草の花を組んで、エコな花壇づくりを。 |
| 公園 | ・公園を増やしてほしい。 |
| 農業 | ・かみしほろナイタイ和牛のブランド化の推進支援を。 ・新規就農支援の制度づくりと具体的な取り組み。 |
| 観光 | ・温泉地の環境整備が遅れていて、特に大型の廃屋の問題が大きい。この問題に取り組まないと活性化は厳しい。 |
| 地域福祉 | ・個々での見守りや訪問にも限界があるため、地域単位で高齢者等の見守り活動を。 |
| 高齢者福祉 | ・「犯罪防止ネットワーク」や高齢者の見守り「SOSネットワーク」、すなわち、全町的「安心・安全・福祉のまちづくり」の施策が求められている。 |
| 学校教育 | ・農業の理解を深めるための教育施設の充実。 |
| 生涯学習 | ・生涯学習の先進の町なので、目線を町民に合わせ活気あるまちづくりを。 |
| 移住・定住 | ・若者が生活できるまちづくり。（就労の場の確保、子育て環境の充実・支援など） ・移住、定住、交流に関する長期的視点での計画案の策定。 |

3 回答のあった団体

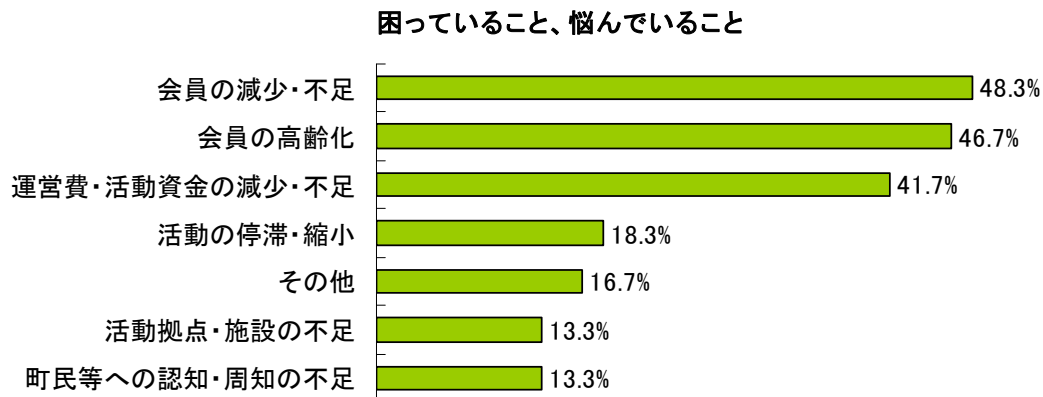
| [産業団体] | [住民活動団体] | [教育・文化・福祉団体] |
|----------------------------|---------------------|-------------------|
| 上士幌町農業協同組合 | 市街地行政区長連絡協議会 | 上士幌町体育連盟 |
| 上士幌町酪農振興会 | 上士幌町自衛隊協力会 | 上士幌町校長会 |
| 上士幌町和牛生産改良組合 | 上士幌町交通安全協会 | 上士幌町教頭会 |
| 上士幌町馬産振興会 | 上士幌町消防後援会 | 上士幌町文化協会 |
| 上士幌町農民同盟 | 糠平消防後援会 | 上士幌町連合PTA |
| 上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合 | 上士幌町防犯協会 | 上士幌町民芸誌火群編集委員会 |
| 十勝農業共済組合北西部事業所 上士幌家畜診療所 | 上士幌町交通安全指導員会 | 上士幌町地域の宝さがしの会 |
| 上士幌町建設業協会 | 糠平温泉衛生組合 | 上士幌町シルバー学級 |
| 十勝大雪森林組合上士幌事業所 | 上士幌町開発研究会 | お話会「カッコウ」 |
| 上士幌町商工会 | 北海道猟友会上士幌支部 | 上士幌町遺族会 |
| 上士幌町観光協会 | 上士幌地区連合会 | 上士幌町民生委員児童委員協議会 |
| ぬかびら源泉郷旅館組合 | 上士幌平和運動フォーラム | 音更地区保護司会上士幌町分区 |
| 上士幌町林業振興対策協議会 | 上士幌ロータリークラブ | 社会福祉法人上士幌町社会福祉協議会 |
| JA上士幌町女性部 | 上士幌町消費者協会 | 身体障害者福祉協会上士幌町分会 |
| ぬかびら源泉郷観光女性部 | 上士幌町季節労働者の会 | 上士幌町老人クラブ連合会 |
| 上士幌町商工会女性部 | NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター | ボランティアみどり会 |
| 上士幌町農協青年部 | NPO法人上士幌コンシェルジュ | 上士幌グリーンボランティア会 |
| 上士幌町商工会青年部 | | 上士幌保育所保護者の会 |
| 上士幌町建設業二世会 | | 上士幌町学童保育所父母の会 |
| | | 社会福祉法人上士幌福寿協会 |
| | | 上士幌町母子寡婦会 |
| | | ひよこクラブ |
| | | 生教育支援チーム |
| | | NPO法人サポートセンター白樺 |

4 設問別調査結果

【問1】困っていること、悩んでいること

**貴団体で、現在困っていることや悩んでいることは何ですか。
あてはまる項目に○をつけて、具体的な内容をお書きください。**

「会員の減少・不足」が48.3%と最も高く、「会員の高齢化」(46.7%)、「運営費・活動資金の減少・不足」(41.7%)が続きます。



その他の回答： ・行政はじめ福祉を含む関係機関の連携のあり方、システムづくり。

《 具体的な内容 》

具体的に尋ねると、「会員の減少」が「運営費・活動資金の減少・不足」や「活動の停滞・縮小」につながっており、「会員の減少」の原因として「会員の高齢化」や新しい（若手の）会員不足である場合が多くなっています。

【会員の減少・不足】

- ・この25年間で120戸の減少になっている。(上士幌町農業協同組合)
- ・馬産振興と表裏一体である「ばんえい競馬」が非常に厳しい経営環境にある中で、馬飼養農家、飼養頭数の減少に拍車がかかっており、活動の内容にも制約が生じる。(上士幌町馬産振興会)
- ・家畜の飼養戸数の減少、畑作共済加入率の低迷。(十勝農業共済組合北西部事業所上士幌家畜診療所)
- ・中間層の退会(役員の重荷、自分の体調、家族の無理解など)と若い人たちの未入会(地域の仲間が少ない)などで、会員が減少・高齢化している。(JA上士幌町女性部)
- ・年々退部員の人数が多く、新入部員の人数が減少している(農業後継者不足等の問題)。(上士幌町農協青年部)
- ・部員減少による部費の減少。(上士幌町商工会青年部)
- ・上士幌建設業協会員の減少、後継者不足による会員の減少。(上士幌建設業二世会)
- ・協力会の運営は個人会費、賛助団体会費を主収入としている、会員の減少により収入も減となっ

- ている。(平成 18 年 94 人→平成 21 年 74 人)。(上士幌町自衛隊協力会)
- ・ 20 年前には 1,000 名を超えていた会員が、現在では 635 名と、大幅に減少した。会員が減少した原因として、町内で実施されていた更新時講習がなくなったことと、会員同士の親睦と交流を目的に実施していた遠乗会(バス研修)が廃止になったことにより、会員になることのメリットがなくなってしまったことがあげられる。(上士幌町交通安全協会)
 - ・ 消防団員の不足。(糠平消防後援会)
 - ・ 景気の低迷などの影響から全体的に新規採用の抑制がなされ、労働者が減少していることから会員も減少の一途をたどっている。このため、会費収入も減少しており、活動資金が不足している状況にある。(上士幌地区連合会)
 - ・ 採用の抑制等により、各単産で会員数が減少していることから、活動資金も減少してきている。(上士幌平和運動フォーラム)
 - ・ 冬期技能講習制度廃止と雇用保険の特例一時金の改悪に伴い、季節労働者の理由を見失い、脱会者が急増し、会員の減少を招来した。それは必然的に組織の運営費・活動資金の減少につながっている。(上士幌町季節労働者の会)
 - ・ 編集作業が一段落して気がつけば、会員も高齢で新規入会者より自然退会の方が多く、発足当時の半数ほどになっている。今後の活動には活動費の増額と新規会員の入会が必須である。(上士幌町地域の宝さがしの会)
 - ・ 活動当初は人形劇なども行っていた。活動年数が 25 年になったが、会員はほとんど変わってなく、また、新会員も入会していない。(お話会「カッコウ」)
 - ・ 戦没者の遺族は、親の代から兄弟姉妹および甥姪、遺児の代へと変化しており、高齢化の進行は避けがたいものがある。このことが在籍を困難にしており会員は減少の一途をたどっている。このため役員を選任にも苦慮する事態がおとずれている。(上士幌町遺族会)
 - ・ 会員の減少、高齢化および独居化が進んでおり、会の存続も心配される。このため、活動費を捻出するためのしめ飾りの販売も継続が危ぶまれる。(身体障害者福祉協会 上士幌町分会)
 - ・ 老人クラブの会員は毎年 10~20 名程度減少を続けている。高齢のための自然減に加えて、若手高齢者の加入が進んでいないことが要因としてあげられる。「高齢者地域福祉推進事業」として位置づけられている老人クラブ関係予算のうち、「町老人クラブ連合会の活動促進に対する助成」には「基準額」として「加入会員分」があるため、会員の減少は補助事業費の減少となる。(上士幌町老人クラブ連合会)
 - ・ 父母の方々の協力で成り立っているが、行事等に協力いただける方々が固定されており、お仕事をしている方ばかりなので、無理をいうこともできず、特に清掃などは一部の方の負担が大きくなっている。(上士幌町学童保育所父母の会)
 - ・ 会員の減少とともに高齢化が進み、活動が停滞しているのが現状である。(上士幌町母子寡婦会)

【会員の高齢化】

- ・ 昭和 40~50 年代に農業後継者として、胸に希望を膨らませ就農したが、いつしか高齢化が進み、その後継者が今や不在の環境になっている。(上士幌町農業協同組合)
- ・ 盟友の高齢化とともに後継者不足。(上士幌町農民同盟)
- ・ 現在、商工業者 189 名のうち、60 歳以上の方が 60% となった。そのうち約半数は後継者がなく、高齢化が進んでいる。(上士幌町商工会)
- ・ 部員の高齢化が進んでいる。また、若手が少ないため、若手育成もできていない。(上士幌町商工会女性部)
- ・ 会員の年齢も 70 代や 80 代が多く、役員の成り手や後継者不足に苦慮している。(上士幌町自衛隊協力会)

- ・基本的には各行政区単位から1名選出された委員により構成されているが、行政区によっては特に着任歴が長い委員の高齢化が進んでいる。(上士幌町消防後援会)
- ・指導者17名のうち8名が70歳以上で、そのうち6名が75歳以上である。指導員会の内規では75歳を定年としている。次回の委嘱更新に向けて、新たな指導員の人選について、指導員会としても協力したいと考えている。(上士幌町交通安全指導員会)
- ・昨年度から銃所持関係の法律が厳しくなり、これから新規の会員が増えないことが予想されるため、今後、会員が高齢化し、活動が縮小していくと思われる。(北海道猟友会上士幌支部)
- ・会員の高齢化と減少傾向はジワジワと進行している。比較的若い世代の会員の参加活動が望まれる。(上士幌町消費者協会)
- ・会員の高齢化により舞踊・三味線をする方がいなくなった。民謡の人数も減少している。(上士幌町文化協会)
- ・入会資格は60歳以上であるが、新規入会は少なく、60代は全体の12%しかいない。(上士幌町シルバー学級)
- ・民生委員児童委員は、地域の信頼があり、ある程度、活動に時間をさける方が適任とされており、誰でも簡単に選任できるものではない。また、個人のプライバシーに関わる活動が多いため、非常にデリケートかつ慎重な対応を要する活動内容となっている。そのため、後任を探すことが非常に難しく、適任者をお願いしても簡単に委員を引き受けてくれる方はいない状況にある。人材の不足から、委員の高齢化が懸念され、できれば40～50代前半の若い世代の方にも委員を担ってほしい状況にある。(上士幌町民生委員児童委員協議会)
- ・地域生活の自力に向けて、地域に出ていく活動を積極的に行い、就労に向けて体力、技能など作業活動に取り組んでいるが、(会員が)高齢のため十分にサポートできないことが多くなっている。(NPO法人サポートセンター白樺)

【運営費・活動資金の減少・不足】

- ・運営は会費収入により行っているが、各社の売上げが全体的に落ち込む中、会費の見直し(2年に1度)によりダウンが続いており、活動や協賛金についても必ずしも満足していない。(上士幌町建設業協会)
- ・現在会員9名の会費のみで運営しているため、森づくり宣伝など資金の不足により活発に活動できない。(ぬかびら源泉郷旅館組合)
- ・何をすることも資金が必要で、予算とにらめっこをしながら運営をしている。(JA上士幌町女性部)
- ・商工会補助金の減少。(上士幌町商工会青年部)
- ・会員の減少、工事受注の減少による運営費の減少。(上士幌建設業二世会)
- ・指導員会はボランティア組織だが、年会費5,000円のほか、交流会や研修会の際には、その都度、負担金を徴収し経費に充てている。(上士幌町交通安全指導員会)
- ・町や国からの委託事業は受けているが活動資金の中心は観光等で訪れた方々への体験による収入で賄っている。スタッフ3名は専従で活動しているがここ5年ほどは給料も引き上げられないままで休みも満足にとれていない。ぬかびら・上士幌活性化のための活動をするNPOだが、収入源でスタッフが将来設計できないようではだめだと思っている。出稼ぎやむなしでは当NPOの主旨からはずれてしまうが、ぬかびら・上士幌活性化のために組織の維持継続が最優先だとも考え、軸足をぬかびらに置きながら広く探っていく必要に悩んでいる。(NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター)
- ・活動費のほとんどが町からの補助金で賄われてきた。しかし現在の補助額は印刷代で相殺される。グラビアをカラーから白黒化するなどの削減をしているが、現在の額では今後の活動が厳しい実態にある。(上士幌町民文芸誌火群編集委員会)

- ・本会発足（1997年）から13年あまり会員の積極的な活動意欲に支えられて調査研究を進めてきた。その間に活動費も発足当時の5分の1ほどに減額される中で、活動費を調査書編集発刊費用にあててきた。編集作業中の数年間の活動は自費手弁当の余儀なき期間だった。（上士幌町地域の宝さがしの会）
- ・会員の減少は収入の66%を占める会費収入の減少に直結し、現在は、活動しきれないために生じる繰越金が収入の28%を占めているが、支出が賄えなくなる事態は目に見えている。（上士幌町遺族会）
- ・社会福祉協議会の事業は、地域福祉に関する公益的的事业であり、仮に利用料を徴収しても収益を求められるものではなく、町からの補助金や委託金により運営・実施している。町の高齢化率が31%を超える状況のなか、高齢者に対する対応はもとより、地域で生活する人々（子どもから高齢者、障がい者、母子・父子家庭、生活困窮者など）の地域福祉を考えた場合、新たな事業展開が望まれるが、人的・財源の面からも余力がない。（社会福祉法人上士幌町社会福祉協議会）
- ・予算はみなさんから頂いた会費ギリギリでやっていて、学童側に予算はあるようだが、厳しいのが現状である。（上士幌町学童保育所父母の会）
- ・生教育授業の中で使いたい教材やメンバーの知識向上のために購入したい本、または研修など活動費が不足しているために断念していることがある。（生教育支援チーム）

【活動の停滞・縮小】

- ・定期総会、消費者大会、バス研修旅行等の参加者に偏る傾向にある。（上士幌町消費者協会）
- ・新規会員の指導不足の会もある。競技が主体となって、初心者への指導がない。（上士幌町体育連盟）

【その他】

- ・酪農家戸数は、平成5年以降10年頃まで年次2~3%の割合で減少していたが、平成15年以降3~6%とその幅が大きくなってきており本会設立時の3分の2となっている。酪農家の減少と規模拡大は、地域の共同作業を困難にし農作業の外部依存度を非常に高めており、コントラクターの受託内容拡充やTMR事業の確立が求められている。（上士幌町酪農振興会）
- ・乳牛飼養総頭数は、本会設立当初より倍の数となり、一戸当たりの飼養頭数は6倍程となった。近年の飼養頭数の動向は、横ばい状況にあり拡大が期待できない。これまでの飼養頭数の増大は、大きな投資が発生し、既往負債となって経営を圧迫している。飼養頭数の増大は、酪農家の加重労働を発生させ、雇用労働が必要となっているが、その確保は厳しい状況となっている。酪農家は時間的、精神的余裕を失い、地域の活動等が困難となっている。また後継者確保や後継者の結婚問題まで広がっている。堆肥舎等の処理施設設置後の増頭は、既存施設での対応が困難となってきている。（上士幌町酪農振興会）
- ・飼料・肥料をはじめとする生産諸資材価格が高騰する中、牛乳・乳製品の消費の落ち込みや国際価格下落等から取引乳価が下げられ経営が圧迫されている。口蹄疫をはじめ、多くの伝染病、感染症の侵入の危険が増した。自給飼料、作物の研究等関係機関の取組も遅れた。（上士幌町酪農振興会）
- ・酪農経営維持のため、個体乳量を高めることが必須だった。個体乳量は、著しく向上したが、乳牛の生産病の多発、乳牛耐用年数が短くなり、酪農経営を圧迫している。（上士幌町酪農振興会）
- ・消費者及び乳業等のユーザーニーズの高度化と多様化に対応するための生乳生産。安くて良質・安全・安心できる畜産物がユーザーから求められ、乳業はHACCPシステムやISO規格等の導入をはかる等徹底した対応を進めている。生産者は、このことに対応した牛乳等の畜産物を生産販売しなければならない状況にある。BSEの発症以来、トレサビリティ法が制定され、生産者組織としても生産履歴をしっかりと残さなければならず、その対応に大変な労力と金額が必要

となった。(上士幌町酪農振興会)

- ・産業廃棄物処理が経営のウエイトとして大きくなり、経営を圧迫している。平成 16 年 11 月から「家畜排泄物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律(家畜排泄物法)」が制定され、環境対策が極めて厳しく対応に大変な労力と費用が発生している。(上士幌町酪農振興会)
- ・国からの補助金の打ち切り等で、生産者負担増が懸念される。(上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合)
- ・不在村森林所有者の増加、後継者の森林に対する無関心(価格が安いことなどで魅力を見いだすことができない)で皆伐後放置される森林が多々ある。すなわち、植えて育てて伐って植えての循環ができていない山林が増えている。(十勝大雪森林組合上士幌事業所)
- ・近年の景気状況に加え、航空路線の再編など観光業界をとりまく状況は厳しく、観光施設等の老朽化に対応すべきリフォームができず客足が遠のいている。施設投資を行うだけの好材料がない。(経営者の高齢化、留保財源不足など)(上士幌町観光協会)
- ・本協議会は、林業採算性が悪化している時代背景の中で、森林施業の合理化を進め、森林整備を促進し、林業・林産業経営の安定を図ることを目的としてさまざまな事業を行っているが、依然として厳しい状況が続いている。製材需要の大半が住宅関連や輸送用資材である中で、国内需要の低迷や世界的な経済動向に影響を受けやすく、更なる合理化の推進によって生産性の向上、木材資源の利用拡大を図る等の取り組みを進めていくことが課題となっている。(上士幌町林業振興対策協議会)
- ・現状の活動内容から判断して存在意義にいささか疑念があり、部内において今後の適正な運営に関し十分なる検討を加えるのが妥当と判断する。(市街地行政区長連絡協議会)
- ・現在、町および上部団体からの助成金と会員 1 名につき 500 円の会費を経費にあてているが、このままの会費制でいいのかということを含め、交通安全協会の今後のあり方について、検討していく必要がある。(上士幌町交通安全協会)
- ・本来事務局も組織の委員で運営することが望ましいが、事務の引き渡しは実現が困難な状況。(従来から定例監査の指摘事項とされている問題である。)(上士幌町消防後援会)
- ・防犯協会は、地域安全活動推進委員および行政区交通防犯委員をもって組織している。地域安全活動推進委員はほとんどの方が数十年にわたって活動されており、新たな会員の募集は今後の課題の一つである。また、行政区交通防犯委員は、行政区によって選出されていないところがあることから、委員の位置づけについて理解が得られていない部分があると思われるため、選出について、積極的に協力を依頼していきたい。さらに防犯協会総会の出席者が少ないことも課題である。地域の情報や意見の交換は、地域の実状に応じた活動を展開していくために重要であり、多くの会員に出席してもらい、積極的な意見交換が行われるよう引き続き働きかけていきたい。(上士幌町防犯協会)
- ・法務大臣の委嘱を受けて保護観察等に携わるが、身分は「民間ボランティア・無報酬」であり、ケースによっては、危険を伴ったり、かなり長期間にわたり「保護観察」が必要となる。守秘義務等の問題もあり人選基準も厳しい。責任は重い職だが、ボランティア(精神)に頼らざるを得ないため、選任にあたってはかなり苦勞している。(音更地区保護司会上士幌町分区)
- ・ボランティアの人が高齢になったため、障がい者をお世話することが困難になってきているので、今後の活動の見直しの時期にきている。(上士幌グリーンボランティア会)
- ・チームメンバーも育児真っ最中の人が多く、また、年長児のいのちの教室開催時など託児を必要とすることが多いが、その際に託児を担当してもらえる人が非常に少なく困っている。(生教育支援チーム)

【活動拠点・施設の不足】

- ・資源ゴミの回収を行っていたが、ゴミの収集場所だった旧開発局の車庫が取り壊されたため、現在この活動を休止している。代わりになる場所を探しているが見つからない。(糠平温泉衛生組合)
- ・活動拠点は町より勤労者会館の貸与を受けているが、施設の老朽化から退去要請がなされている。代替の施設がないため、活動拠点の確保が難しく苦慮している。(上士幌地区連合会)

【町民等への認知・周知の不足】

- ・ぬかびら源泉郷においてはソフト的な努力を近年行っているものの、町民の認知が少なく、もっと多くの町民の利用を増やすことが課題。(上士幌町観光協会)
- ・町民の認知、理解度は不明。(あまり高いとは思えない)(上士幌町消費者協会)
- ・上士幌町福祉計画と整合性を持たせた中で当法人の事業内容について町民に知ってもらいたい。(社会福祉法人上士幌福寿協会)
- ・生教育支援チームが町の次世代育成支援として存在していることを知らない人が沢山いる。チームの活動内容も知られていない。生教育の必要性などもまだまだ町民の方々に知ってもらえないと感じる。すべての子ども達が1回は生教育授業を受けられるようにするためには、保護者や町民にもっとよく生教育を知ってもらわなければならない。(生教育支援チーム)

【問2】今後の予定や抱負

貴団体として、今後の活動の予定や抱負などについてお聞かせください。

活動目的や抱負とともに、厳しい状況での活動となっていること、会員相互の活性化に努めていること、住民や周辺への活動内容のPRが必要なこと、行政や他の団体との連携により活動を活発にしていきたいことなどが記載されています。

【環境美化】

- ・「女性ならではの心配りやアイデア」を活かしていけるような活動をテーマに、豊岡見晴し台駐車公園花壇の維持管理。(上土幌町商工会女性部)
- ・観光地なので全国からのお客様に気持ちよく過ごしていただけるよう、ごみ拾い等の美化活動を続けていきたい。それが、外からのお客様へ上土幌、ぬかびら源泉郷のイメージアップになればと考えている。(糠平温泉衛生組合)

【防犯、交通安全】

- ・関係機関・団体と連携を密にとりながら、引き続き交通安全活動を実施していく。また、役員会等を通じて、交通安全協会の今後のあり方について、協議・検討していく。行政組織との関係を考慮すると、防犯協会との統合についての検討も必要であるとする。(上土幌町交通安全協会)
- ・関係機関・団体と連携した防犯活動を実施していきたい。また、安全・安心なまちづくりには、地域の協力が不可欠であり、役員会や総会を通じて意見交換を行い、行政区ごとで積極的に地域安全活動が実施されるような体制づくりを模索していきたい。(上土幌町防犯協会)
- ・研修会の開催(参加)や親睦会等を通じて、会員同士の親睦を深めるとともに、知識と技術の習得に努めていきたい。また、総会や役員会等で積極的な意見交換を行い、指導員活動がより効果的なものになるよう努めていきたい。(上土幌町交通安全指導員会)
- ・消費者相談の処理、解決能力アップ。(上土幌町消費者協会)
- ・長期的には、啓蒙活動の充実による消費者被害の未然防止。(上土幌町消費者協会)
- ・消費者行政部門との連携強化、相互理解(上土幌町消費者協会)
- ・「社会を明るくする運動」の一環として、「ふれあい広場事業」に参加。犯罪のない社会づくりに向けた子どもたちへの啓発活動を実施。(標語づくり)(音更地区保護司会上土幌町分区)
- ・犯罪のない明るい町づくりに協力を惜しまず、他団体との連携を図り、今後とも上土幌町青少年を守る会の一員として、防犯予防活動を行っていきたい。(音更地区保護司会上土幌町分区)

【地域福祉】

- ・平成19~20年度に災害時要援護者の登録台帳の更新を行い、登録者に防犯グッズの貸出を行った。更に「災害時における高齢者・障害者等に対する支援対策マニュアル」を作成し、緊急時の対処方法等について、改めて認識することができた。今後、要援護者の見守りや安否確認など継続した支援活動を展開し、新規登録者の促進についても対応していく必要があると考えている。将来的には、行政区と連携した地域の見守り・支援活動を図れればと思う。(上土幌町民生委員児童委員協議会)
- ・直接的なサービス利用者や事業等で関わる方々の認知度はあるが、すべての住民にとって、社会福祉協議会への認知は薄い。社会福祉協議会として地域や住民のために「この事業を行う」「○○○な地域づくりをともにめざしましょう」という具体的で明確な目標や、意思表示、協働が必要

であるとする。今年度着手している第4期地域福祉実践計画は、住民に対する社会福祉協議会の意思表示であり、その計画達成に向けてのプロセスや実施・実行・協働が、住民からの評価になると考える。(社会福祉法人上士幌町社会福祉協議会)

【高齢者福祉】

- ・老人クラブは「人と人のつながりを活発にする」機会をふやすための企画を行っている。このため平成19年度より健康委員と健康づくり推進員が体操教室・栄養教室に取り組んでいる。また、女性部の清拭布づくりとふれあいサロンの試みはボランティア活動であるとともに単位クラブ女性部員の人と人の交流の場でもある。さらに健康づくりや人と人との出会いの機会を増やす目的で一般会員の参加による町老連杯ゲートボール大会やフロアーカーリングやゴルゲートを楽しんでいる。これらは各協会の協力を得ることで、各協会員と老連会員が新たに出会い、交流が図られた。このように老連の各事業に「人と人のつながりを活発にする」しくみや「新たな出会い」の機会を増やすこととしている。(上士幌町老人クラブ連合会)
- ・町内高齢者の施設入所待機者が増えている中、現在の入所定員数の増加もしくは施設新設を漠然とではあるが考えている。(社会福祉法人上士幌福寿協会)
- ・「利用者主体のサービス提供と自立支援を目指して」を法人理念に掲げ、地域の高齢者に安全・安心なサービスを提供することで、住み慣れた地域で安心した生活をしてもらえる一助となる。また、職員にも安定した生活ができるよう経営基盤を整える。(社会福祉法人上士幌福寿協会)

【障がい者福祉】

- ・身体障害者福祉法の思想の普及、同法による援護の実施、会員の健康増進、会員相互の親睦交流はますます重要であり、会員相互の協力のもと活動を継続していきたい。現在のような社会環境では、高齢者・独居者が増える傾向にあり、情報提供などがこまやかにできるのは当事者団体なので、これまで以上の活動が必要になってくると思う。(身体障害者福祉協会上士幌町分会)
- ・地域生活の自立に向けて、地域に出ていく活動を積極的に行っている。障がい者を孤立させず共生の社会を実現するために、住民のパワーを結集したい。(NPO法人サポートセンター白樺)
- ・地域生活支援を進めていく上で、障がい者の生活基盤となる年金、経済基盤の確立、相談支援機関のあり方、就労支援など社会進出の機会・場の確保、一般企業におけるサポートシステム、ハローワークと連携した事業者支援、新しい場の開拓、地域住民の交流(特に青年)の場づくり、社会教育の取り組みに期待し、これらの課題解決に向けて努力したい。(NPO法人サポートセンター白樺)

【母子(父子)福祉】

- ・母子家庭の会員は就労や家事等を一人でこなし、将来設計を考える余裕もないまま時間に追われている。会員の減少と高齢化を課題としながらも、共助という形で協力し合っていきたい。支援の必要な母子家庭の情報量が少なく、手をさしのべようにもそれができず、会への加入を勧めることが難しくなっている。現在のような社会・家庭環境では、ひとり親家庭は増えていく傾向にあり、情報提供などが細やかにできるのは当事者団体なので、これまで以上の活動が必要になっていると思う。(上士幌町母子寡婦会)

【子育て支援】

- ・今後も多くの子ども達に、食と農の大切さを知ってもらうため、子ども農業体験といった行事を実施していきたい。(上士幌町農協青年部)
- ・活発な活動はできないが、子育て支援や各小学校での読み聞かせ、依頼があれば他町村への読み

聞かせなど、活動を続けていきたい。(お話し会「カッコウ」)

- ・保育所行事(運動会、お楽しみ会、お別れ会)への参加、年長児親子バス見学、廃品回収の実施、交通安全教室への協力、エコキャップ、リングプル収集の呼びかけなど保育所運営や子ども達への生活・活動向上に向けて力になっていきたい。(上士幌保育所保護者の会)
- ・毎年おおむね行事は固定されているが、親子レクの競技やクリスマス会の出し物などは毎年どんどん変えていくように努力している。役員が毎年入れ替わるので、その年度ごとに子どもも親も楽しめるような活動を考え、学童運営そのものを続けていけるように努力したい。(上士幌町学童保育所父母の会)
- ・盆踊り、遠足、上士幌高の運動会に参加、クリスマス会、修了式。(ひよこクラブ)

【学校教育】

- ・町内小学生への環境教育の継続とレベルアップ。(NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター)
- ・管内教頭研への参加。(上士幌町教頭会)
- ・理事者との平成22年懇談会、町社会教育主催講演会への参加、方面P研など。(上士幌町連合PTA)
- ・保育所、小学校、中学校、高校での生教育授業を定着させ、町内すべての子どもを対象に幼児期から思春期まで段階的に生についての授業を行えるようにしていきたい。(生教育支援チーム)

【生涯学習】

- ・今までカラオケ・民謡の2日に分けて芸能発表を行っていたが、平成22年度は民謡の出演者が少なくなったので1日で開催することになった。他町村も会員が減少しているようだ。(上士幌町文化協会)
- ・文芸誌活動は地味な分野ではあるが、本町の文化の炎が消えることなく発展するように、今後も地道に活動を展開したい。(上士幌町民文芸誌火群編集委員会)
- ・歴史遺産調査の継続。隣接町村、特に音更川流域の団体と連携した活動に発展させたい。(上士幌町地域の宝さがしの会)
- ・熟年者などの経験や特技を広く町民に伝授する活動。(仮称)上士幌マイスターとして参加してもらい活動する。(上士幌町地域の宝さがしの会)
- ・これまで同様にできるだけ大勢の参加者を募り、楽しみながら活発に活動を進めていきたい。(上士幌町シルバー学級)
- ・シルバー学級として、町のために何か貢献できる取り組みがあれば協力していきたい。(上士幌町シルバー学級)

【農業】

- ・コントラクター事業の推進、TMRセンターの設置、ナイタイ和牛のブランド化の推進、小麦の安定生産のためのコンバイン更新。(上士幌町農業協同組合)
- ・WTO農業交渉は、日本の酪農・畜産にとって大変厳しい内容で進められている一方で、EPA、FTA交渉が着実に成立しており、将来、酪農・畜産経営が窮地に追い込まれることが危惧される。政局が替わり「新たな酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」や「家畜改良増殖目標」が定められ、又酪畜版所得補償制度が定められようとしている。本会はこれまでの基本方針や目標の達成度や効果検証を行いながら、新たな酪肉近方針の課題や今後制定が予定されている所得補償制度への提言を行わなければならないと考えている。地域循環型農業の確立によるコスト低減、環境に優しい農業経営と粗飼料自給率の向上を図ることが、本町酪農に課せられた問題であり、そのことが酪農の存続と発展に結びつくとの認識から、計画の基本としている。そ

のためには、家畜ふん尿対策をメイン課題として、堆肥化された有機質を地域農地へ効率よく還元し、良質飼料確保、圃場残渣物を家畜利用することにより地域循環型農業を確立し、ユーザーニーズに応える「良質・安心・安全」の農畜産物供給基地化を図ると共に環境に優しく、人々が訪れたり、定住したくなる農村づくりを進めたい。(上士幌町酪農振興会)

- ・遊休飼料畑を発生させず、飼料畑の集積化と改良により粗飼料自給率の向上を進め、そのための加重投資や加重労働をさけるため、コントラクター充実、TMRセンター事業の早期確立に努める。(上士幌町酪農振興会)
- ・農畜産物の輸入自由化と市場実勢による価格形成へと移行する中、酪農・畜産物の国内外の競合は熾烈な状況であり、今までに増して我々の生産生乳や肉の需要拡大を上部組織、関連組織と共に自ら進めて行かなければならない。そのための必須条件として計画生産に基づく、「抗菌性物質」や「生菌」汚染がなく安全で極めて美味しい原料の生産と提供も本会の基本計画である。その実現のために、本会自ら厳しいペナルティ措置もとり、需要拡大のための資金拠出も行いながら自らも消費者への酪農への理解と生産物の需要拡大に取り組む。(上士幌町酪農振興会)
- ・酪農のサポート組織である酪農ヘルパー有限責任事業組合の充実を側面から支えていく。(上士幌町酪農振興会)
- ・戦後最大の農政改革といわれるなかで、改悪とならないよう、従来の経営安定対策(品目横断的、水田、畑作)などの問題点を十分精査し、組織がめざしている「真の農政改革」、後継者が希望の持てる戸別所得補償制度の確立(畑作、酪農)に向けて運動を展開する。(上士幌町農民同盟)
- ・酪農組合員の定休、傷病・緊急時に対応できるよう、今後ともゆとりある酪農経営の一助を担っていく。(上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合)
- ・加入推進により有資格全戸加入をめざす。適正な共済事業の実施。(十勝農業共済組合北西部事業所上士幌家畜診療所)

【有害鳥獣駆除】

- ・これからも有害鳥獣駆除により、まちづくりに協力していく。(北海道猟友会上士幌支部)

【林業】

- ・放置された森林(未立木地、伐採跡地等)の再生。所有者の高齢化、後継者無し、少面積所有者など問題も多いが、少しでも放置森林がなくなるような努力をしたい。(十勝大雪森林組合上士幌事業所)
- ・昨年12月に公表された「森林・林業活性化プラン」の中で、木材自給率50%を指針とするなど、今後は具体的な施策の展開が望まれているが、本協議会としても林業や林産業従事者が元気に将来に目標を持って仕事ができる環境づくりに取り組む必要がある。会員各位の知恵を出し合い、行政や関係機関の協力を得ながら情報収集に努め、林業振興策の調査・研究を進め、具体的な施策の提言を進めていきたい。また、本協議会の特徴を生かした地域貢献活動を行うなど、まちづくりの一役を担う取り組みについても更に進めていきたい。(上士幌町林業振興対策協議会)

【観光、イベント】

- ・熱気球、スキー場、ゴルフ場、大雪山国立公園、温泉、ひがし大雪アーチ橋梁群、ナイト高原牧場など、多くの景勝地や体験観光地を保有しているが知名度があがっていない。知名度のアップと一次産業(農畜産物)を結びつけた新たな食観光の掘り起こしや発信が必要。(上士幌町観光協会)
- ・良質な温泉資源を活用しさらなる価値を作り出す。観光資源の再整備。(ぬかびら源泉郷旅館組合)
- ・観光者など町外から人が多く訪れるような魅力ある街づくり。(上士幌建設業二世会)

- ・今まで5回ワカサギ釣り大会を開いている。平成23年はNPO法人ひがし大雪自然ガイドセンターの協力のもとで、大きな大会を開催したい。(上士幌町開発研究会)
- ・林業という自然に大きく関わった士幌線をテーマにしたエコツアーの構築。(NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター)
- ・環境省ビジターセンターへの協力。(NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター)
- ・ぬかびら源泉郷周辺散策路の整備と案内マップの作成。(NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター)
- ・来訪者に上士幌ファンになってもらうための上士幌の案内、情報発信。(NPO法人上士幌コンシェルジュ)
- ・景観など町の魅力発見PR活動の継続(町内外の参加者を求める活動)。(上士幌町地域の宝さがしの会)

【特産品】

- ・上士幌の特産品をPRするための町内事業者等への企画提案。(NPO法人上士幌コンシェルジュ)
- ・「女性ならではの心配りやアイデア」を活かしていけるような活動をテーマに、イベント等での女性部独自の特産品を出していこうと考えている。(上士幌町商工会女性部)

【商工業】

- ・消費者からのニーズに応えるべく地域貢献事業内容。商工業者発展には地元一体となって地域貢献活動。(上士幌町商工会)

【移住、定住】

- ・移住定住者など町外から人が多く訪れるような魅力ある街づくり。(上士幌建設業二世会)
- ・移住定住を促進するための住宅に関する企画提案。(NPO法人上士幌コンシェルジュ)

【その他】

- ・本来、農業の発展に馬産振興は不可欠なものであったが、生産規模拡大及び経済発展に伴い、愛玩的要素になってきている。今後馬産振興を発展させていくには、これまでの活動とは視点を変え、生産者が意欲を持てる活動、地域に貢献できる活動の模索が必要と考える。しかし会員の高齢化、減少により、その取り組みは思うように進んでいない現状である。(上士幌町馬産振興会)
- ・町の活性化を促す各種の取り組みに対する協力を積極的に行い、各会員の後継者が育ち、企業を継続することで、地域住民のライフラインを守っていくことが使命と感じ、発展していきたい。(上士幌町建設業協会)
- ・現状維持をと考えている。(JA上士幌町女性部)
- ・地域に対する社会貢献活動の継続。(上士幌建設業二世会)
- ・団体を維持継続の場合、研鑽業務を拡充したい。(市街地行政区長連絡協議会)
- ・自衛隊各種行事への参加。(上士幌町自衛隊協力会)
- ・平成23年には上士幌町開町80周年記念事業として、自衛隊第5音楽隊によるコンサート開催を要請する。(上士幌町自衛隊協力会)
- ・労働者の生活を守る活動を行っているが、地域経済の活性化や町の元気づくりに結びつく活動として認識している。会員の減少などにより厳しい状況にあるが、今後とも町の支援を受けながら積極的な活動を行っていきたい。(上士幌地区連合会)
- ・今後も引き続き、上士幌地区の反戦・平和、護憲、民主主義擁護、反核・反原発に向けた運動に、

地域が連携して取り組んでいきたい。(上士幌平和運動フォーラム)

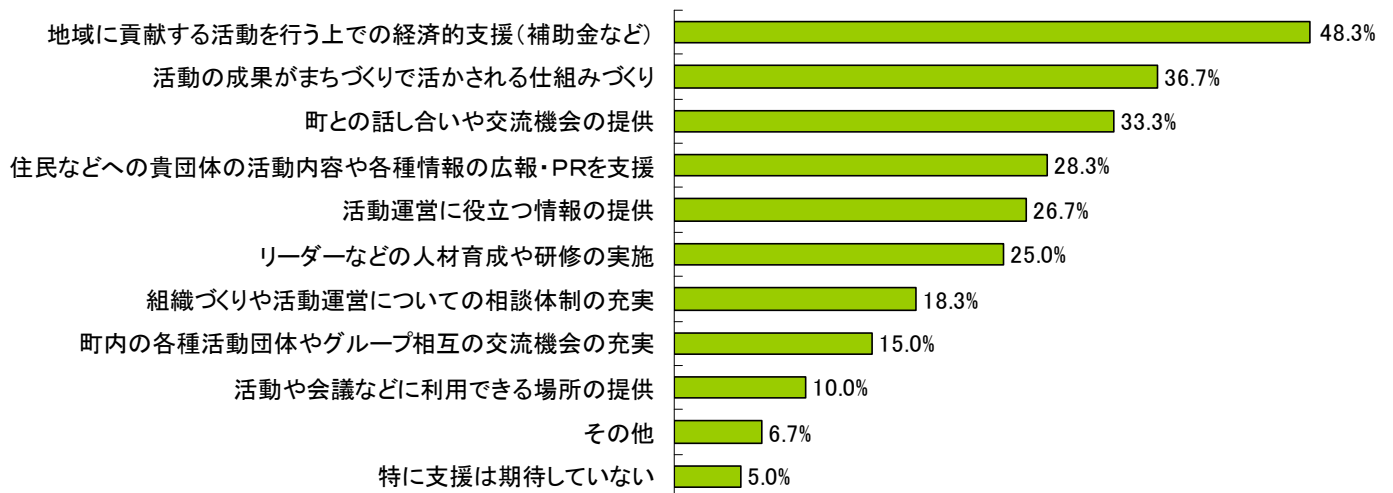
- ・例年通りの活動となるが会員の増強に努めたい。(上士幌ロータリークラブ)
- ・雇用保険特例一時金の 50 日復活。(上士幌町季節労働者の会)
- ・終戦から 65 年の歳月が過ぎ去ったが、今日の日本の平和と安定は、戦争によって命を落とさされた方の尊い犠牲と戦後の国民のたゆまぬ努力の上に築かれている。親の代から兄弟姉妹および甥姪、遺児の代への遺族の変化にともなった活動を行うとともに、今後も会員同士の親睦を図って参りたい。(上士幌町遺族会)

【問3】活動を充実する上で行政に期待する支援

上士幌町では、住民と行政が連携を深め、ともにまちづくりを進める「住民と協働のまちづくり」に取り組んでいますが、貴団体の活動を充実する上で、行政(上士幌町)にどのような支援を期待しますか。次の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援(補助金など)」が48.3%と最も高く、「活動の成果がまちづくりで活かされる仕組みづくり」(36.7%)、「町との話し合いや交流機会の提供」(33.3%)が続きます。

行政に期待する支援



- その他の回答：
- ・消費者問題の処理能力を持つ職員の継続的な養成。
 - ・働けて飯が食えることが「住民と協働のまちづくり」の前提である。
 - ・インフラの整備。
 - ・補助金は一方的な助成ではなく、仕事を創出する形でないと続かない。

【問4】今後のまちづくりへのご意見・ご提案

貴団体の立場から、上士幌町の今後のまちづくりへのご意見・ご提案がありましたら、お聞かせください。(記載される方の個人的なお考えでも結構です。)

生活環境については、環境美化や保全、防災、防犯、公園整備などに関する意見があります。

【環境美化、環境保全】

- ・美しい農村環境づくり。(上士幌町酪農振興会)
- ・害虫の駆除。(ひよこクラブ)
- ・花いっぱい運動が活性化するなど、各団体・サークルのパワーを喜んでみている。町を過ぎるとすぐ(六差路あたり)国道沿いの花壇が荒れている。花壇の延長と、多年草の花を組んで、エコな花壇づくりを。(他町の前例あり)(NPO法人サポートセンター白樺)

【防災】

- ・自衛隊との連携を深めるとともに、災害時、非常時には自衛隊への出動要請など、速やかな対応ができるよう情報交換を図ってほしい。(上士幌町自衛隊協力会)

【防犯、消費者保護】

- ・消費者庁は役割をしっかりと果たせていない。だからといって身近で消費者被害が発生しているのに「しょうがない」では済まない。消費者庁ができて「消費者行政活性化」が全国的に叫ばれるようになっただけでも一步前進したといえる。同時に地方公共団体においても消費者問題は行政の避けて通れない「業務」となったことを意味する。本町の住民が悪徳商法や欠陥商品、またヤミ金被害あるいは多重債務による生活破綻など様々な消費者被害の未然防止のための住民教育や情報提供など安心感の得られる住民環境づくりをお願いしたい。併せて、消費者被害には親身な相談と解決に向けた的確な助言、方策が講じられる体制整備をお願いしたい。安心できるまちづくりの柱の一つとして位置づけて頂きたい。(上士幌町消費者協会)
- ・犯罪のない明るい町づくりに協力を惜しまず、他団体との連携を図り、今後とも上士幌町青少年を守る会の一員として、防犯予防活動を行っていききたい。(音更地区保護司会上士幌町分区)

【公園】

- ・公園を増やしてほしい、公園の整備。(ひよこクラブ)

産業については、農商工連携や農業の振興、有害鳥獣(シカ)の駆除、林業、観光、商工業の振興、特産品や雇用の安定や確保などに関する意見があります。

【産業】

- ・農商工連携の地域づくりの具体的取り組み。(上士幌町酪農振興会)

【農業】

- ・現在は170戸余りで現状の戸数維持には大変厳しいものがあるが、農業産出額を落とすことなく、拡大に向けて取り組むべきであり、今後も行政と連携をより一層密にとっていきたい。(上士幌町農業協同組合)
- ・かみしほろナイタイ和牛のブランド化の推進支援を。平成20年にかみしほろ和牛の海外輸出を試みたが、その後はなかなか環境が整わず現在に至っている。JAも精力的に取り組むが、町としても輸出を含めご支援いただきたい。(上士幌町農業協同組合)

- ・コントラクター事業への第2弾の事業投資への支援に厚くお礼申し上げる。TMRセンターについても早い年次での立上げを予定しているので、更なる支援を願いたい。(上士幌町農業協同組合)
- ・平成23年産から小麦が新品種に全量切り替わる。安定した生産規模の確保を図る為にも、更新時期に差し掛かっているコンバインの導入の効率化に取り組む予定だが、国等の補助事業がないこともあり、本町として何らかの支援の検討を願いたい。(上士幌町農業協同組合)
- ・既往農業者の減少が続く中で、新規就農者の斡旋や支援助成を行い、JAと共に新規入植しやすい環境づくりを進めてほしい。(上士幌町農業協同組合)
- ・農地法の改正に伴い、JAとしても農地集積円滑化事業に参画できることとなった。町の総合計画の中に、農協が「農地集積円滑化法人」に認可されるよう文言にて表現いただきたい。(上士幌町農業協同組合)
- ・基本的には、本会や酪農家自らが酪農という産業の発展のために取組、解決して行くことと考えるが、総合的、体系的に取り組む必要性のあるものもあり、それらは、行政や農協等のテコ入れ無くしては実現できないと考える。(上士幌町酪農振興会)
- ・地域循環型農業確立、粗飼料自給率向上、酪農の生産安定のための具体的計画の樹立と実行。(上士幌町酪農振興会)
- ・酪農従事労働力不足の解消と加重労働の解消。(上士幌町酪農振興会)
- ・新規就農支援の制度づくりと具体的な取組が急がれる。(上士幌町酪農振興会)
- ・農業雇用者が増大している現状から、彼らの住環境整備が急がれる。(上士幌町酪農振興会)
- ・国内酪農・畜産維持発展の為の政策確立要求、生乳生産対策の実施、酪農及び生活環境整備の推進、農作業安全対策の推進、生産資材の安定供給と系統利用の推進、牛乳・乳製品の消費拡大の展開、研修会(役員・婦人)及び共励会の実施、共同・協業の推進、国内酪農の国民合意を得る運動の実施など。(上士幌町酪農振興会)
- ・家畜防疫対策の実施、乳成分向上対策の取組、乳質改善運動の強化、草地更新の推進及び飼料自給率の拡大、乳牛改良の推進(E T技術の取組)、乳牛検定事業の支援と営農情報の活用推進、家畜ふん尿処理と堆肥有効活用の取組など。(上士幌町酪農振興会)
- ・農業への支援活動の更なる充実化。(上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合)

【有害鳥獣駆除】

- ・町の基幹産業である農業を守るために、獣による農業被害を最小限に防ぐ必要がある。現在、上士幌町では獣害を防ぐには有害駆除が一番成果の出ている手段である。農業を守るために有害駆除をしやすい環境整備、補助の増加を要望したい。(北海道猟友会上士幌支部)
- ・農業被害防止のため、シカ有害駆除に協力しているが、駆除後の個体の処理に手間がかかるため、有害駆除に影響が出てきている。駆除したシカを受け入れる施設の整備をお願いしたい。(北海道猟友会上士幌支部)

【林業】

- ・かつては、林産業から入る財源が町を支え、土場付近には住宅が立ち並び、木工場が建ち、林産資源が上士幌の原動力となっていた。経済効果の遅い植栽に疑問を呈する者もいたが、町も人工造林を積極的に進めてきた。しかし、安価な輸入材が市場を席卷する時代へと移り変わり、林業採算性が問われる厳しい状況にあるが、国際的な温暖化防止に向けた機運の高まりにより、森林の持つ多面的機能が改めて見直されている中で、積極的な造林事業の推進を希望する。今後は、消費者のニーズに合う高付加価値の製品開発を進め、地元材の積極的な利活用が国民的に根付くことで、林業・林産業が再び活力となる町づくりを期待する。(上士幌町林業振興対策協議会)

【観光】

- ・温泉地の環境整備が遅れていて、特に大型の廃屋の問題が大きい。この問題に取り組まないと活性化は厳しい。(ぬかびら源泉郷旅館組合)

- ・国道にプラザの温泉PRの看板ができたが、ぬかびら源泉郷も上士幌町内の温泉なので、一緒にPRしてほしい。(ぬかびら源泉郷観光女性部)
- ・ぬかびら源泉郷などで町民(他町村)に還元する事業を進める。(上士幌町校長会)

【商工業】

- ・町内の商工業者にとって、消費流出の歯止めが生き残りの必須の課題である。(上士幌町開発研究会)
- ・バルーンスタンプ協同組合は、今年結婚祝い支援事業、出産祝い支援事業など町外流出を阻止し町内の活性化に寄与したい。(上士幌町開発研究会)

【特産品】

- ・町の特産品づくりへの支援。(上士幌町酪農振興会)
- ・上士幌町の農産物、特産物をもっとアピールする場があってもよいのでは。(上士幌町農協青年部)
- ・農産物など特産品の販路拡大に努めている個人はいる。これらを町のブランド品として発信できればよりその効果は大きいと思う。(上士幌町地域の宝さがしの会)

【雇用】

- ・当面、冬期の就労対策の拡大。長期的には、中高年季節労働者対策としての就労環境の整備・充実。(上士幌町季節労働者の会)
- ・厚労省は季節的な循環型の失業は、基本的に雇用保険特例一時金の対象と考えていない。しかし、北海道の建設関連分野の就労環境は季節雇用が前提であり、公共事業が激減し季節労働者の雇用環境の改善は期待できない。緊急就労対策事業の繰り返しではすまない状況になっている。こうした現状に鑑み、行政の主導による本町の季節労働者が将来的に安心感の得られる就労環境づくりをお願いしたい。本町の「まちづくり」の根本は「働けば生活ができる」住民の就労環境が当たり前のこととして保障されているべきものとするが、季節労働者の多くがおかれている現実とはなっていない。季節労働者の冬期就労事業について地元関連事業者との連携を含め行政のより実効性のある施策に裏打ちされたまちづくりを求める。(上士幌町季節労働者の会)
- ・子どもたちが将来にわたって上士幌町に住み続け、自らの夢や希望の実現はもとより、町の発展のために努力できる雇用の場を生み出す具体的な施策を検討してはどうか。(上士幌町校長会)
- ・第一線を退いた人たちの生き甲斐と収入確保の為に生産拠点施設(農産品加工など)があればよいと思う。(上士幌町地域の宝さがしの会)

福祉については、地域福祉に関する情報のネットワーク化、人と人の出会いやつながりの充実、障がい者や母子(父子)家庭への支援などに関する意見があります。

【地域福祉】

- ・民生委員活動において、高齢者や障がい者等の最新情報を常に持っている事が重要だが、なかなかリアルタイムに情報を得る事ができず、苦慮する場面が多々ある。そのため、情報のネットワーク化を図り、気軽に情報を出し入れできるようなシステム構築ができればよいと思う。また、個々での見守りや訪問にも限界があるため、地域単位で高齢者等の見守り活動が図れればと思う。災害時においても、瞬時に近所の方が高齢者世帯などの安否確認等を行い、迅速な対応を図る事が最も有効的な手段だと思われる。(上士幌町民生委員児童委員協議会)

【高齢者福祉】

- ・時代の変化とともに老人クラブ活動には、高齢者をねらった悪質商法や詐欺犯罪の防止、孤独死や高齢者虐待の防止、認知症の人や家族の支援などの活動に取り組むことが求められている。当クラブはこのような活動をめざすが、「犯罪防止ネットワーク」や高齢者の見守り「SOSネット

ワーク」、すなわち、全町的「安心・安全・福祉のまちづくり」の施策が求められていると考える。老人クラブは地域を基盤とした自主的な組織であることを踏まえ、一般会員の意見や要望を取り入れながら、「人と人の出会い」の機会を増やし、自主的・自立的運営の実現をめざしている。上士幌町のまちづくりにも、「人と人のつながりを活発にする」、新しい絆をつくり上げることを目的とした施策を熱望する。(上士幌町老人クラブ連合会)

- ・町老人クラブ連合会の活動への助成の「基準額」の「一般分」から「町老人クラブ連合会が行う健康づくり事業」に重点を移しているのので、介護予防事業として認識をいただきたい。(上士幌町老人クラブ連合会)

【障がい者福祉】

- ・身体障害者福祉法による援護の実施、会員の健康増進、会員相互の親睦交流は、まちづくり活動そのものであり、ますます必要とされている。個人情報やプライバシーに対する意識が高くなり、支援が必要な障がい者の状況把握はかえって困難になっているが、会員の加入促進に町の協力をお願いしたい。しめ飾りの販売で活動費を捻出しているが、身体障害者福祉法による援護の実施を推進するために、活動に対する経済的支援をお願いしたい。(身体障害者福祉協会 上士幌町分会)
- ・(障がい者が)一般企業に就労する際、定期的に見まわりを行うサポートがないと経験上(定着は)無理である。地域生活支援として、積極的に社会進出をめざす必要があると思っている。障がい者を孤立させず共生の社会を実現するために点の施設、施策に終わらないで明日につながる行政に取り組んでほしい。住民のパワーの結集した、働く場(道の駅など)をつくってほしい。(NPO法人サポートセンター白樺)
- ・福祉のサービス(新しい事業)の拡大、拠点を行政主導で取り組んでほしい。(NPO法人サポートセンター白樺)

【母子(父子)福祉】

- ・母子家庭の就業による自立促進が最も重要。また諸施策の情報提供の充実も大切であると考えている。個人情報やプライバシーに対する住民の意識も高くなり、支援が必要な世帯の状況把握はかえって困難になっているが、まちづくりの観点から配慮をお願いしたい。今後も母子家庭及び寡婦の生活の安定と向上をめざしていきたい。(上士幌町母子寡婦会)

教育については、学校教育の充実や生涯学習の推進などに関する意見があります。

【学校教育】

- ・教育予算の増額(上士幌町校長会)
- ・学校教育推進支援員(2年生TT)、特別支援教育支援員の継続(上士幌町校長会)
- ・農業の理解を深めるための教育施設の充実。(上士幌町校長会)
- ・希望や夢を持って未来を楽しみに、大人になることを楽しみにできる子ども達ばかりになったら、この町はすばらしい町といえるのではないか。生教育は、性についての話と捉えがちだが、子ども達自身が自分の尊さや命の尊さについて考えることができ、自己肯定感を育むための重要な機会であると思う。今後も町の取り組みとして、生教育を継続していくことがまちづくりの意味でも大切なのではないかと考える。(生教育支援チーム)

【生涯学習】

- ・町からの補助金は、体育振興のための助成であるから、(町としても)新規会員の募集や指導に努めて欲しい。(上士幌町体育連盟)
- ・学びの環境づくりの充実。(上士幌町校長会)
- ・各事業者の社員が何かのテーマを持って町の芸能・文化活動に興味を持ったり、サークルに加盟

したり、活動してほしい。(上士幌町文化協会)

- ・小さな町だからこそ、いろいろな面に参加しやすいと思う。生涯学習の先進の上士幌町なので、目線を町民に合わせて、生涯学習センターの明かりがいつも夜遅くまでついていたあの頃のような活気あるまちづくりを進めてほしい。微力だが協力したい。(お話会「カッコウ」)

そのほか、行政運営や協働のあり方、移住や定住の促進、平和の大切さの継承、まちづくり全体や総合計画などに関する意見があります。

【行政運営】

- ・ナイト高原牧場は本町の酪農・畜産の発展には欠かせないものであり、運営の在り方に向けての環境を整えるべき。(上士幌町農業協同組合)
- ・学童に限ったことなのか分からないが、ひとつの施設を複数で管理する(学童の場合は保育所、社協、教育委員会)場合の相談場所を明確にする、もしくは考えを統一してほしい。相談、要望などをたらい回しにされては団体・施設とも運営が立ちゆかなくなる。学童が運営できない事態になると働いている親も通う子ども達も困る。(上士幌町学童保育所父母の会)

【協働】

- ・住民の考え、計画を実現できるまちづくりを期待する。(ぬかびら源泉郷旅館組合)
- ・「活動の成果がまちづくりで活かされる仕組みづくり」「町との話し合いや交流機会の提供」「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援(補助金など)」は重要なことで、活動の成果が大きな励みとなり、町との連携を深めることによって活動の幅がもっと広がる。当団体の町の活性化活動に対する情熱が損なわれないようなくみづくりをお願いしたい。(上士幌建設業二世会)
- ・協働の行動・展開には、共有の意志統一や問題意識が必要だと考える。「協働の町づくりなのだから積極的に町民が(ボランティアで)事業に協力、参画するのが当然」という、町や社会福祉協議会の同列ではない考えでは、表面上だけの協働の姿であり、真からの町民との協働の町づくりの実現は困難だと考える。地域単位での福祉活動や、認知症高齢者支援、防災活動など、お互い(町、社会福祉協議会、町民も)住みよい上士幌町にするために共通認識を持ち、上下の無い同列の立場での活動、展開が必要だと考える。(社会福祉法人上士幌町社会福祉協議会)

【移住、定住】

- ・若者が生活できるまちづくり。(就労の場の確保、子育て環境の充実・支援など)(十勝大雪森林組合上士幌事業所)
- ・若い、やる気はあるが金がない、そんな人が現在、上士幌町には多くいる。また、上士幌町に住みたい人も多くいる。まちづくりの風となる「若者・バカ者・よそ者」が住める住環境の整備に目を向けてほしい。若者は何とか生きようとあがくので、それがパワーとなる。セカンドライフでのんびりでは、まちづくりのパワーにはならない。知恵も大切だが無駄かもしれないパワーは不可欠。(NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター)
- ・移住、定住、交流に関する長期的視点での計画案の策定。(NPO法人上士幌コンシェルジュ)
- ・移住、定住の増加による行政的支援での効果の検証(計画案との比較および経済的効果の分析)(NPO法人上士幌コンシェルジュ)

【平和】

- ・世界の平和と人類の生存に大きな脅威をもたらす核兵器について、町民の安全・安心を守るために、町としても廃絶を強く訴えることが必要。(上士幌平和運動フォーラム)
- ・特に重要な事業である「護国神社参拝及び研修旅行」の参加人数の確保が困難となっており、経済的な支援をお願いしたい。上士幌町遺族会は、戦場に倒れ、戦禍に遭われ、あるいは戦後、遠い異境の地で亡くなられたすべての方々に思いをはせるとともに、過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、次の世代に継承していかねばならない。遺族同士の親睦とともに、平和を希求する姿を遺族(戦争体験者)が次世代に語り継ぐ機会を新たに企画することを望む。(上士幌町遺族会)

【まちづくり全体】

- ・町の基幹産業である農業を中心に、商業、工業、町民がこぞって知恵を出し合い、若者が希望の持てる魅力ある元気な上士幌町であってほしい。(上士幌町農民同盟)
- ・二地域居住、移住定住、観光は、有機的な結びつきが必要。組織や予算、情報などを一元化する必要がある。(上士幌町観光協会)
- ・若者達が活気あふれる魅力的な町にしてほしい。(上士幌町農協青年部)
- ・町民が安心して明るく生活できるまちづくりに期待している。(上士幌町教頭会)(上士幌町連合PTA)
- ・子ども達の笑顔あふれるまちづくりに期待する。(上士幌保育所保護者の会)

【総合計画】

- ・コンセプトをより具体的に、シンプルにしてほしい。理解しにくいものには敬遠してしまう。(上士幌町建設業協会)
- ・進行中の第4期計画を途中総括しつつ、ぶれることのない基本方針を一般町民にも理解できる方法で広く浸透させることが必要。どういう町にするか、したいか、スローガンを一つだけにして、町民がどこにいても目につくような広報をすることも必要。外に目を向けることも大事だが、上士幌町民が心底住みたいと思えるまちづくりが今必要と思う。(上士幌ロータリークラブ)
- ・まちづくりは、未来志向で継続してほしい。計画づくりに終わらないで、毎年実施を検証しつつ。(NPO法人サポートセンター白樺)

【その他】

- ・ひがし大雪博物館は古く、経費がかかるのは分かるが、中の展示物などは貴重な町の財産でもあり、大切な観光の宝である。お金がかかるからやめるではなく、民間でいう、企業努力的なものがあってもよいと思う。町の新たな事業のきっかけ、行事のひとつに、博物館の再生のためのものも、プラスして頂きたい。ビジターセンターとは別物で、博物館は学芸員もいて専門的なものである。展示物の数も全く違う。なんとか続けられるようにして頂きたい。(ぬかびら源泉郷観光女性部)
- ・芸術家や各種スポーツ団体の夏合宿地として、町内施設やぬかびら源泉郷などを活用する。(上士幌町校長会)

5 調査票

～上士幌町のまちづくりにご協力下さい～

まちづくり団体アンケート

貴団体について、お聞かせください。

※記入欄に書ききれない箇所がある場合は、別の紙に記載して提出頂いても結構です。

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 団体名 | |
| 記載される方のお名前と役職 | ご氏名 [役職 :] |
| 主な活動内容について、簡単にお書きください | ・活動している人数（会員、または組合員数）： 人 |
| | ・活動内容： |

【問1】貴団体で、現在困っていることや悩んでいることは何ですか。

あてはまる項目に○をつけて、具体的な内容をお書きください。

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------|
| 1. 会員の減少・不足 | 2. 会員の高齢化 | 3. 活動の停滞・縮小 |
| 4. 活動拠点・施設の不足 | 5. 運営費・活動資金の減少・不足 | |
| 6. 町民等への認知・周知の不足 | 7. その他 | |

具体的な内容

裏面もよろしく
お願いします。



【問2】貴団体として、今後の活動の予定や抱負などについてお聞かせください。

【問3】上土幌町では、住民と行政が連携を深め、ともにまちづくりを進める「住民と協働のまちづくり」に取り組んでいますが、貴団体の活動を充実する上で、行政（上土幌町）にどのような支援を期待しますか。次の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

1. 住民などへの、貴団体の活動内容や各種情報の広報・PRを支援
 2. 活動や会議などに利用できる場所の提供
 3. 町内の各種活動団体やグループ相互の交流機会の充実
 4. 活動の成果がまちづくりで活かされる仕組みづくり
 5. 組織づくりや活動運営についての相談体制の充実
 6. リーダーなどの人材育成や研修の実施
 7. 町との話し合いや交流機会の提供
 8. 活動運営に役立つ情報の提供
 9. 地域に貢献する活動を行う上での経済的支援（補助金など）
 10. 特に支援は期待していない
 11. その他（）

【問4】貴団体の立場から、上土幌町の今後のまちづくりへのご意見・ご提案がありましたら、お聞かせください。（記載される方の個人的なお考えでも結構です。）



ご協力ありがとうございました。

返信用封筒（切手はいりません。）に入れ、平成22年8月16日(月)までにご返送ください。
また、ファックスによる提出でも結構です。 FAX 2-4637